

『ラグビーワールドカップ2019』

～世界最高の舞台を支える「もうひとつの主役」～

「ラグビーワールドカップ2019」の開催がいよいよ2か月後に迫りました。ラグビーは南半球の国々やヨーロッパで人気が高いスポーツで、アジアでは初開催になります。4年に1度の大会ですが、仲間や家族と同じ時間を共有し、一緒に盛り上げることができるチャンスは一生に一度かもしれません。世界の約40億人が視聴し、オリンピック・パラリンピック、サッカーワールドカップとともに世界三大スポーツ大会に数えられるラグビーワールドカップ。大会を支えるボランティアに焦点をあて、大会に向けての取り組みや思いを伺いました。

「ノーサイド」精神でおもてなし! 大会公式ボランティア『TEAM NO-SIDE』

埼玉県県民生活部 ラグビーワールドカップ2019大会課
ボランティア・会場運営担当 主幹 野本 真さん

ラグビーワールドカップ2019大会の大会ボランティアは「TEAM NO-SIDE」といいます。ラグビー好きの方はご存知だと思いますが、「ノーサイド」とは試合が終われば敵も味方も一緒になって、お互いのプレーを讃え合うというラグビー精神のことです。実は、この言葉は日本ラグビー独自の用語です。今回、運営職員、ボランティア、その他関連団体など、携わるすべての人が一つのチームとなり、スクラムを組み、みんなで盛り上げようという思いを込めて、大会ボランティアの名称になりました。

ボランティアの活動は、道案内、駅での案内、ファンゾーンの運営、大会本部内での運営サポート、休憩所の運営など多岐にわたります。大会ボランティアは2018年4月から7月に募集され、熊谷会場では多くの応募があり、募集予定人数1,000人を上回る約1,400人が「TEAM NO-SIDE」に採用されました。熊谷は、「西の花園、東の熊谷」と言われるラグビー専用スタジアムを有し、ラグビーに関心が高い土地柄です。熊谷会場のボランティアは20代から80代まで幅広く、男女比では女性が若干多くなっています。県が主催し、埼玉県国際交流



「TEAM NO-SIDE」インタビューロードショー
(採用面接)にてラグビーボールに親しむ



前回のイングランド大会でのボランティアの活躍

協会が実施している外国人案内ボランティア育成講座の受講者も130名程度採用されており、講座で学んだことを発揮していただきたいと思っています。

実務的な活動もさることながら、一番期待しているのは、観客のワクワク感、高揚感を演出し、世界中からいらっしゃる観客にラグビーワールドカップに来てよかったです、楽しかったと思ってもらえるように、盛り上げてもらうことです。ボランティアがいないとラグビーワールドカップの世界観は完成しない、重要なパートナーであると考えています。観戦に来た日本人も外国人もみんなでその場を共有し、楽しめるような仕掛け作りをしていきたいと思っています。

そのためにボランティアには、ラグビーワールドカップの世界を実感できるようなオリエンテーションや研修を受講してもらおうと、ラグビーのボールに実際に触れたり、日本代表をはじめ各国のユニフォームを見たり、ラグビーのルールについて学び、前回のイングランド大会の様子を動画で見て、ワールドカップの雰囲気を感じもらっています。元々、熱心なボランティアの皆さんですが、回を重ねるごとに、自分たちが盛り上げていくんだという意気込みを感じるように

なってきました。

ボランティアには、「TEAM NO-SIDE」の一員としてラグビーワールドカップを体験し、感動したことをレガシーとして次のステージへ活かしていくいただきたいと思っています。ラグビーワールドカップが終われば、次は2020オリンピック・パラリンピックも迫っています。オリンピック・パラリンピックだけではなく、様々な場所での活躍も期待しています。

ラグビーはサッカーや野球と違い、応援チームに関係なく混ざって観戦します。観戦する皆さんには、そんな

独特の雰囲気を味わってもらいたいです。また、観戦チケットをお持ちでない方にもぜひ熊谷に足を運んでもらえればと思っています。熊谷市役所近くに設けられるファンゾーンでは試合開催日の3日間はもちろん、日本戦などがある7日間はパブリックビューイングで試合を観戦し、ラグビーワールドカップを体感することができます。日本代表や応援している国に声援を送り、熊谷や埼玉県内のおいしいものを食べながら、お祭り気分を存分に味わい、「ONCE IN A LIFETIME(一生に一度)」の大会と一緒に盛り上げていきましょう。

『TEAM NO-SIDE』として すべての方とワールドカップを共有!

TEAM NO-SIDE ボランティアスタッフ 向笠 肇さん



私は『兼高かおる 世界の旅』の大ファンで、若い頃から海外に憧れ、現在までに訪れた国は仕事も含め80か国に上ります。退職後、今までの恩返しの気持ちで、地元越谷で国際交流などのボランティアを始め、県内大学の学生によるNPO団体「じゅげむ」の子育て食堂の活動にも参加し、青少年育成にも注力しています。世界に目を向けられる子供が一人でも増えることを願い、グローバルな人材育成のお手伝いができるべきと思っています。

私がラグビーワールドカップの大会ボランティアに応募した動機は二つあります。一つは息子が高校でラグビーをしていたこと、もう一つはオリンピック・パラリンピックを含め、自分にも何か手伝えることはないかと考えたからです。それまで、ラグビーとは無縁でしたが、息子のおかげでラグビーを好きになりました。ラグビーワールドカップで海外から多くの方が訪れるということ、今までしてきたことや思いとマッチしたため、ボランティアに応募しました。

私が3年前に外国人案内ボランティアコーディネーター研修を受けた際、「熊谷ラグビー場を見に行きませんか」という誘いを受け、研修受講者4人とともに見学に参加しました。その時、熊谷市ラグビーフットボール協会の方と知り合い、スポーツボランティアというものにも出会いました。そこで、埼玉県ラグビーフットボール協会のボランティア「BAND」に所属し、熊谷ラグビー場での試合運営補助、入場ゲートでのチケット確認、座席案内などを行うことになりました。私は熊谷まで片道一時間半かかり、他の活動もあるため、あまり頻繁には参加できませんが、月1回は熊谷ラグビー場での活動に参加しています。BANDとしての熊谷ラグビー場での活動のおかげで、選手と記念撮影する機会があったりと、貴重な体験をさせてもらっています。

BANDメンバー達とも親交を深め、活動後には一緒

に食事に行ったりします。BANDメンバーの中にはお子さんがラグビーをしていて恩返しの気持ちで参加している方やラグビーワールドカップの大会ボランティアの練習として参加している方など、様々な方がいます。ベテランが多く、ボランティアのノウハウなどを教わりました。ボランティアはチームワークが大切ですが、スポーツボランティアでは特に重要になります。当日だけポンと参加するのではなく、仲間とのつながりがあることで本番もうまくいくと思っています。

スポーツボランティアは、選手や試合自体に支障をきたすことなく、選手や観戦者を後方支援するためルールを理解することが大切です。また、特に大会期間中は長丁場になるので、いつも健康で気分良く楽しく活動するためには、はりきり過ぎて、疲れをためないことも重要です。ボランティア自身が良いコンディションでいることで、笑顔で応対できます。私は今までのボランティア経験からも、ボランティア自身が楽しむことが重要だと考えています。

これから、「TEAM NO-SIDE」の役割別の実践研修が始まります。ラグビーワールドカップがすぐそこまで迫ってきてることを実感しています。本番まで残り数か月、体調を万全に備え、熊谷を訪れた人たちともにワールドカップを楽しみ、盛り上げていきたいと思います。



「BAND」メンバー達と一緒に